

■共有プリンタとして使用する場合のインストールの流れ

●サーバ側の手順

1. サーバ側でセットアップを起動します。
2. サーバ側に「テプラ」本体を接続してプリンタの追加をします。
3. 追加したプリンタのプロパティを開き、共有タブから「このプリンタを共有する」にチェックをいれます。
Windows Vista (x86/x64) では、プロパティを「管理者として実行」から開いてください。

※以下 4～6 の手順は、サーバーとクライアントが異なるバージョン (x86 と x64) の組み合わせで必要になります。

4. 共有タブの「追加ドライバ」を選択します。
5. 「追加ドライバ」で、実行中の OS とは異なるバージョンのドライバを選択してください。
Windows 2000 では、x64 ドライバを追加することができないため、これ以降のサーバ側の手順は省略してください。
また、サーバとクライアントが同じプロセッサで共有プリンタを使用する時は、これ以降の「サーバ側の手順」を省略することができます。
省略しない場合は、以下のドライバを選択してください。

OS	プロセッサ (環境)	種類 (バージョン)
Windows XP (x86)	x64	Windows XP
Windows Vista (x86)	x64	Type 3 - ユーザー モード
Windows XP (x64)	x86	Windows 2000、Windows XP および Windows Server 2003
Windows Vista (x64)	x86	Type 3 - ユーザー モード

6. ドライバのコピー元が要求されるため、セットアップフォルダにある各種類のドライバを指定してください。

サーバ側の設定は以上で終了です。

●クライアント側の手順

1. クライアント側でセットアップを起動します。
クライアント側にローカルのプリンタとして追加されている場合には、セットアップを起動する必要はありません。
2. 本体接続画面までウィザードを進めます。
3. 追加したい共有プリンタに接続します。

以上の手順でクライアントに共有プリンタを追加でき、印刷やテープ幅取得などが正常に行えます。

※「サーバ側の手順 4～6」の「追加ドライバの選択」は、サーバとクライアントが異なるバージョン (x86 と x64) の組み合わせで必要になります。異なるバージョンの組み合わせにもかかわらず本手順を省略すると、次シートの組み合わせ以外であっても印刷設定・ユーティリティの動作が制限されます。

制限事項

「共有プリンタとして使用する場合のインストールの流れ」で共有プリンタを追加した場合でも、OS の組み合わせによって制限があります。

1. 印刷やユーティリティなどの制限

サーバ	クライアント	制約事項	回避策
Windows 2000	Windows XP (x64)	クライアント側からテープ幅取得やテープ送りなどができません。	(1) クライアント側のプリンタフォルダからプリンタを削除して、再度サーバの共有プリンタへ接続します。 (2) クライアント側のプリンタフォルダからプリンタを削除して、クライアントにローカルプリンタをインストール後、共有プリンタを接続します。
Windows 2000	Windows Vista (x64)	クライアント側からテープ幅取得やテープ送りができません。	OS の制限であり回避することはできません。
Windows XP (x64) Windows Vista (x64)	Windows 2000	クライアント側でプリンタフォルダのプロパティから印刷設定を開くことができません。アプリケーションの印刷設定が可能なので、印刷／テープ幅取得やテープ送りはできます。	OS の制限であり回避することはできません。

2. それ以外の制限

全 OS	Windows XP (x64)	共有プリンタを接続してクライアント側に共有プリンタを追加した後は、クライアント側にローカルとして本体を接続してもプリンタの追加で失敗します。共有プリンタを接続して追加されるドライバと、ローカルに本体を接続して追加されるドライバの情報が異なるためです（共有プリンタを接続して追加されるドライバには言語モニタが付きません）。クライアントが Windows XP (x64) の場合のみ発生します。	クライアント側のプリンタフォルダからプリンタを削除して、クライアントにローカルプリンタをインストール後、共有プリンタを接続すれば、共有プリンタとして追加できます。
------	------------------	--	---